

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2016年10月6日(06.10.2016)



(10) 国際公開番号

WO 2016/157548 A1

- (51) 国際特許分類:
A61F 13/472 (2006.01) A61F 13/56 (2006.01)
A61F 13/533 (2006.01)
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2015/064194
- (22) 国際出願日: 2015年5月18日(18.05.2015)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:
特願 2015-070649 2015年3月31日(31.03.2015) JP
- (71) 出願人: ユニ・チャーム株式会社 (UNICHARM CORPORATION) [JP/JP]; 〒7990111 愛媛県四国中央市金生町下分182番地 Ehime (JP).
- (72) 発明者: 工藤 淳(KUDO, Jun); 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜1531-7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP). 北川 雅史(KITAGAWA, Masashi); 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜1531-7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP). 谷口 健太(TANIGUCHI, Kenta); 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜

1531-7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP). 秋山 紗恵子(AKIYAMA, Saeiko); 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜1531-7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP).

(74) 代理人: 一色国際特許業務法人(ISSHIKI & CO.); 〒1050004 東京都港区新橋2丁目12番7号 労金新橋ビル Tokyo (JP).

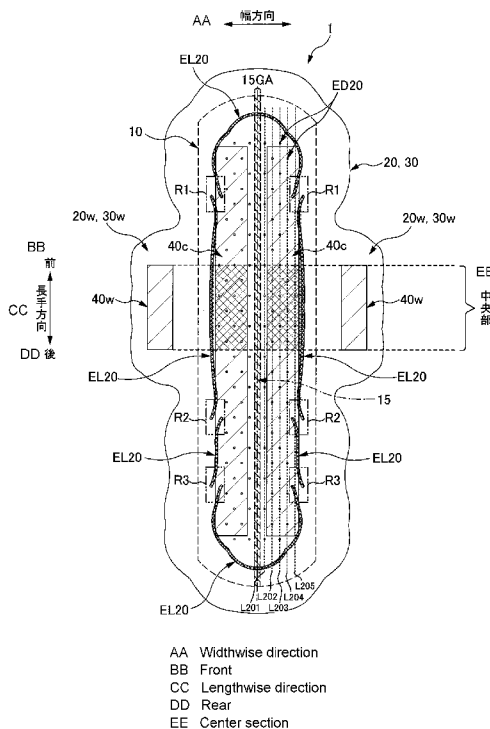
(81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, KE, KG, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.

(84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨー

[続葉有]

(54) Title: ABSORBENT ARTICLE

(54) 発明の名称: 吸収性物品



(57) Abstract: An absorbent article having a thickness direction, a widthwise direction and a lengthwise direction which are perpendicular to one another, and having an absorbent body exhibiting liquid absorbency, a top sheet for covering the absorbent body from the skin side in the thickness direction, and a back sheet for covering the absorbent body from the non-skin side in the thickness direction, wherein: the absorbent body has a folding guide line that guides in a manner such that folding occurs, projects toward the skin-side in the thickness direction, and is oriented in the lengthwise direction; guided-folding regions having a width no greater than the thickness of the absorbent body are formed on both sides of the folding guide line in the widthwise direction; the absorbent body and the top sheet are joined to one another by a linear compressed section oriented in the lengthwise direction; the back sheet has an adhesive section, which is a region coated with adhesive on the non-skin side in the thickness direction; and the guided-folding regions and the linear compressed section are not formed in a region overlapping the adhesive section in at least the center section in the lengthwise direction.

(57) 要約: 互いに直交する長手方向と幅方向と厚さ方向とを有する吸収性物品であって、液吸収性の吸収体と、前記厚さ方向の肌側から前記吸収体を覆うトップシートと、前記厚さ方向の非肌側から前記吸収体を覆うバックシートと、を有し、前記吸収体は、前記厚さ方向の肌側に突出して折れ曲がるように誘導する折り誘導線を前記長手方向に沿って有し、前記折り誘導線の前記幅方向の両側にそれぞれ前記吸収体の厚さ以下の幅を有する折り曲げ誘導領域が形成され、前記吸収体と前記トップシートとは前記長手方向に沿った線状圧搾部によって接合されており、前記バックシートは、前記厚さ方向の非肌側に接着剤が塗布された領域である粘着部を有し、少

なくとも前記長手方向の中央部において、前記折り曲げ誘導領域及び前記線状圧搾部は、前記粘着部と重複する領域に形成されていない

WO 2016/157548 A1



ロツパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE,
ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV,
MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK,
SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ,
GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

— 国際調査報告 (条約第 21 条(3))

明 細 書

発明の名称： 吸収性物品

技術分野

[0001] 本発明は、吸収性物品に関する。

背景技術

[0002] 経血などの排泄液を吸収する吸収性物品として生理用ナプキンが知られている。同ナプキンは、互いに直交する長手方向と幅方向と厚さ方向とを有している。また、同ナプキンは、液透過性のトップシートと液不透過性のバックシートとの間に、液体吸収性繊維を主材とする吸収体を有している。このような生理用ナプキンの例として、特許文献1には、使用者の臀裂部分と当接する部分において、吸収体を折り曲げて上向きに隆起させることにより、当該臀裂部分に対するフィット性を良好にする吸収性物品が開示されている。

先行技術文献

特許文献

[0003] 特許文献1：特表2010-227286号

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0004] 特許文献1に記載された吸収性物品では、上向きに隆起する部分の裏面側に接着部が形成されており、吸収体の表面を折り曲げて山状に隆起させた後に裏面側の接着部によって折り線部を接着固定することで、山折り状態を維持している。しかし、このような構成では接着部によって固定されていない部分に歪が生じやすく、隆起部分を形成する面が変形して当該隆起部の形状が崩れてしまうおそれがある。また、隆起部の上端部（すなわち吸収体の折り目が形成されている部分）が接着固定されているため、接着された部分が固くなって使用者に違和感を生じさせやすい。

[0005] 本発明は、上記のような問題に鑑みてなされたものであって、その目的と

するところは、吸収性物品を着用する際に、吸収体の折り曲げ部分の面形状が崩れることを抑制して良好なフィット性を実現することにある。

課題を解決するための手段

[0006] 上記目的を達成するための主たる発明は、互いに直交する長手方向と幅方向と厚さ方向とを有する吸収性物品であって、液吸収性の吸収体と、前記厚さ方向の肌側から前記吸収体を覆うトップシートと、前記厚さ方向の非肌側から前記吸収体を覆うバックシートと、を有し、前記吸収体は、前記厚さ方向の肌側に突出して折れ曲がるように誘導する折り誘導線を前記長手方向に沿って有し、前記折り誘導線の前記幅方向の両側にそれぞれ前記吸収体の厚さ以下の幅を有する折り曲げ誘導領域が形成され、前記吸収体と前記トップシートとは前記長手方向に沿った線状圧搾部によって接合されており、前記バックシートは、前記厚さ方向の非肌側に接着剤が塗布された領域である粘着部を有し、少なくとも前記長手方向の中央部において、前記折り曲げ誘導領域及び前記線状圧搾部は、前記粘着部と重複する領域に形成されていない、ことを特徴とする吸収性物品である。

[0007] 本発明の他の特徴については、本明細書及び添付図面の記載により明らかにする。

発明の効果

[0008] 本発明によれば、吸収性物品の着用時において、吸収体の折り曲げ部分の面形状が崩れることを抑制して良好なフィット性を実現することができる。

図面の簡単な説明

- [0009] [図1]生理用ナプキン1を厚さ方向の肌側から見た概略平面図である。
[図2]生理用ナプキン1を厚さ方向の非肌側から見た概略平面図である。
[図3]図1中のA-A矢視で示す概略断面である。
[図4]吸収体10を厚さ方向の非肌側から見た概略平面図である。
[図5]ナプキン1の使用態様について説明する図である。
[図6]図6Aは、吸収体10を折り誘導線15に沿って折り曲げたときの状態について説明する概略断面図である。図6Bは、図6Aの状態から吸収体1

0を平面状に伸ばしたときの状態について説明する概略断面図である。

[図7]折り曲げ誘導領域15GA及び線状圧搾部EL20と粘着部40との関係を表す図である。

[図8]図8A及び図8Bは、アンカリングが生じる原理について説明する図である。

[図9]ウイング部20w, 30wを折り返した状態における、折り曲げ誘導領域15GA及び線状圧搾部EL20とウイング粘着部40wとの関係を表す図である。

[図10]図9のB-B矢視で示す断面について、ナプキン1を下着に固定したときの状態について示す図である。

[図11]ウイング部20w, 30wを吸収体10の幅方向端縁部に沿って折り返した状態における、折り曲げ誘導領域15GA及び線状圧搾部EL20とウイング粘着部40wとの関係を表す図である。

発明を実施するための形態

[0010] 本明細書及び添付図面の記載により、少なくとも以下の事項が明らかとなる。

互いに直交する長手方向と幅方向と厚さ方向とを有する吸収性物品であって、液吸収性の吸収体と、前記厚さ方向の肌側から前記吸収体を覆うトップシートと、前記厚さ方向の非肌側から前記吸収体を覆うバックシートと、を有し、前記吸収体は、前記厚さ方向の肌側に突出して折れ曲がるように誘導する折り誘導線を前記長手方向に沿って有し、前記折り誘導線の前記幅方向の両側にそれぞれ前記吸収体の厚さ以下の幅を有する折り曲げ誘導領域が形成され、前記吸収体と前記トップシートとは前記長手方向に沿った線状圧搾部によって接合されており、前記バックシートは、前記厚さ方向の非肌側に接着剤が塗布された領域である粘着部を有し、少なくとも前記長手方向の中央部において、前記折り曲げ誘導領域及び前記線状圧搾部は、前記粘着部と重複する領域に形成されていない、ことを特徴とする吸収性物品。

[0011] このような吸収性物品によれば、吸収体で粘着部を介して下着と接着され

た部分の剛性が高くなって平面形状を維持しやすくなる。そして、粘着部によって接着された平面形状を有する部分（すなわち平面部分）に線状圧搾部が重複しないようにすることで、当該平面部分に折り曲げの起点ができてしまうことを抑制できる。また、当該平面部分が折り曲げ誘導領域と重複しないようにすることで、折り誘導線に沿った吸収体の変形を阻害しにくくなる。これらにより、吸収性物品の着用時において、吸収体の折り曲げ部分の平面形状が崩れることを抑制して良好なフィット性を実現することができる。

[0012] かかる吸収性物品であって、前記バックシートから前記幅方向の外側に延出して下着に固定されるウイング部を有し、前記ウイング部の前記厚さ方向の非肌側には、前記接着剤が塗布された領域であるウイング粘着部が形成されており、前記長手方向の中央部は、前記長手方向においてウイング粘着部が形成されている領域である、ことが望ましい。

[0013] かかる吸収性物品であって、前記吸収体は、前記折り誘導線に沿って前記厚さ方向の肌側に突出して折れ曲がっている、ことが望ましい。

[0014] このような吸収性物品によれば、折り誘導線に沿った折り癖を吸収体に付けることができる。吸収性物品を着用する際には、当該折り癖によって吸収体が厚さ方向（肌側）に突出して折れ曲がりやすくなるので、使用者に良好なフィット感を与えやすくなる。

[0015] このような吸収性物品によれば、ウイング粘着部が形成されている領域、すなわち、使用者の膣口と当接する領域において、吸収体が折り誘導線に沿って肌側に突出して折れ曲がった形状を維持しやすくなる。これにより、膣口付近において使用者に良好なフィット感を与えることができる。

[0016] かかる吸収性物品であって、前記バックシートの前記厚さ方向の非肌側で、前記幅方向の両端に設けられた1対の前記ウイング粘着部の間には、前記接着剤が塗布された領域である本体粘着部が形成されており、前記ウイング部を前記幅方向の中央側へ折り返したときに、前記ウイング粘着部のうち少なくとも一部の領域が、前記本体粘着部と重複する、ことが望ましい。

[0017] このような吸収性物品によれば、ウイング粘着部と本体粘着部とが重複し

た領域で厚さ方向に下着を挟み込んで固定することにより、当該重複した領域の剛性をより高くすることができる。これにより、重複した領域の平面形状が維持されやすくなり、吸収体の折れ曲がり形状がより崩れにくくなる。

[0018] かかる吸収性物品であって、前記ウイング部を前記吸収体の前記幅方向の端縁部に沿って前記幅方向の中央側へ折り返したときに、前記ウイング粘着部と前記折り曲げ誘導領域とが重複しない、ことが望ましい。

[0019] このような吸収性物品によれば、ウイング粘着部を介して折り曲げ誘導領域とウイング部とが接着されず、折り曲げ誘導領域の剛性が高くなってしまふことが抑制される。これにより、吸収性物品の着用時において、吸収体が折り誘導線に沿った折れ曲がり変形することが阻害されにくくなる。

[0020] かかる吸収性物品であって、前記線状圧搾部は、前記長手方向の中央部よりも外側において分断された箇所を有し、前記線状圧搾部が分断された箇所と前記本体粘着部とが重複している、ことが望ましい。

[0021] このような吸収性物品によれば、前記線状圧搾部を分断することによって長手方向の中央部と長手方向の前後（外側）部分とで吸収体に作用する力を変化させやすくなる。また、前記線状圧搾部が分断された箇所が粘着部を介して下着と接合されることにより、線状圧搾部に沿って長手方向に伝播する力の一部が分断箇所を超えて伝達されるので、使用者の身体の動きに連動する下着の動きに吸収体が追従しやすくなる。これにより、吸収体に形成されている折り曲げ形状が崩れてしまふことが抑制される。

[0022] かかる吸収性物品であって、前記吸収体と前記トップシートとは複数の点状圧搾部によって接合されており、複数の前記点状圧搾部のうち、前記幅方向の最も内側に配置されている前記点状圧搾部の位置は、前記本体粘着部の前記幅方向の内側端部の位置よりも前記幅方向の内側である、ことが望ましい。

[0023] このような吸収性物品によれば、幅方向において粘着部によって吸収体の下着に固定されている領域よりも点状圧搾部が形成されている領域が広いため、当該点状圧搾部が形成されている領域の平面形状が保たれやすくなり、

吸収体の折れ曲がり形状がより崩れにくくなる。なお、本体粘着部が幅方向中央部の付近に形成されると吸収体を折り曲げたときに裏面側に生じる突出部と接触するおそれがあるが、点状圧搾部の形成位置にはそのような制約は無いため、本体粘着部よりも幅方向中央部の近くに配置することが可能である。

[0024] かかる吸収性物品であって、複数の前記点状圧搾部が前記長手方向に沿って並ぶことにより、複数の列が形成されており、複数の前記列のうち、前記幅方向の最も内側に配置されている前記列の位置は、前記本体粘着部の前記幅方向の内側端部の位置よりも前記幅方向の内側である、ことが望ましい。

[0025] このような吸収性物品によれば、幅方向のなるべく広い領域に点状圧搾部が形成されることにより、吸収体の剛性をより高くすることが可能となる。その際、点状圧搾部が列状に配置されることにより、当該点状圧搾部の列が形成された領域を平面形状に保ちやすくなり、吸収体の折れ曲がり形状がより崩れにくくなる。

[0026] かかる吸収性物品であって、複数の前記点状圧搾部が等間隔で配置されている、ことが望ましい。

[0027] このような吸収性物品によれば、吸収体とトップシートとの接合強度が均一になりやすく、吸収体の剛性が一定になりやすい。これにより、吸収体に折り癖をつけることが容易になり、折り誘導線に沿った良好な折れ曲がり形状を形成しやすくなる。

[0028] かかる吸収性物品であって、前記吸収体の単位面積当たりの質量が均一である、ことが望ましい。

[0029] このような吸収性物品によれば、吸収体の目付量を均一にすることで、吸収性物品の装着時において、下着を引き上げる際に吸収体の表面に歪等が生じにくくなるため、折り誘導線に沿った良好な折れ曲がり形状を形成しやすくなる。

[0030] かかる吸収性物品であって、前記吸収体の厚さは3 mm以下である、ことが望ましい。

[0031] このような吸収性物品によれば、吸収体が薄く形成されるため、折り誘導線に沿って容易に折り曲げることができるようになる。また、薄型であるため、折り曲げた状態から平面状態に戻ろうとする力が小さく、折れ曲がり部の形状が維持されやすくなる。

[0032] ===実施形態===

＜生理用ナプキンの構成＞

本実施形態に係る吸収性物品の一例として生理用ナプキン 1（以下、単にナプキン 1 と呼ぶ）について説明する。なお、以下の説明では吸収性物品の例として生理用ナプキンについて説明するが、本実施形態の吸収性物品には、所謂おりものシート（例えばパンティライナー）等も含まれており、生理用ナプキンに限定されるものではない。

[0033] 図 1 は、生理用ナプキン 1 を厚さ方向の肌側から見た概略平面図である。図 2 は生理用ナプキン 1 を厚さ方向の非肌側から見た概略平面図である。図 3 は、図 1 中の A－A 矢視で示す概略断面である。また、以下の説明では、図 1～図 3 に示すように、各方向を定義する。すなわち、ナプキン 1 の製品長手方向に沿った「長手方向」と、ナプキン 1 の製品短手方向に沿って長手方向と直交する「幅方向」と、長手方向及び幅方向とそれぞれ直交する「厚さ方向」と、を定義する。長手方向は、ナプキン 1 の使用時において使用者の腹側となる方向である「前側」と、使用者の背側となる方向である「後側」とを有する。厚さ方向は、ナプキン 1 の着用時に着用者の肌と当接する側（図 3 において上側）である「肌側」と、その逆側（図 3 において下側）である「非肌側」とを有する。

[0034] ナプキン 1 は、平面視縦長形状のシート状部材であり、液透過性のトップシート 20 と、液吸収性の吸収体 10 と、液不透過性のバックシート 30 とが厚さ方向の肌側から非肌側へと順に積層されて形成されている（図 3 参照）。そして、これら各部材 20, 10, 30 は、それぞれ、厚さ方向に隣接する部材と、ホットメルト接着剤等の接着剤 HMA で接合されている。なお、同接着剤 HMA の塗布パターンとしては、Ωパターンやスパイラルパター

ン、ストライプパターン等を例示できる。

[0035] トップシート20及びバックシート30の平面形状は互いに同形状であり、かつ、その平面サイズは吸収体10の平面サイズよりも大きくされている。そして、図1及び図2に示されるように、これら両シート20, 30の外周縁部20e, 30e同士が接着又は溶着で接合されることにより、これら両シート20, 30同士の間に吸収体10が保持されている。また、トップシート20及びバックシート30の長手方向の略中央部が幅方向の外側に延出することにより、ナプキン1を下着（不図示）に載置固定する際に供される固定部であるウイング部20w, 30wが形成されている。

[0036] 吸収体10は、吸収性コア11と肌側シート12と非肌側シート13とを有する。吸収性コア11は、経血等の液体（排泄液）を吸収して保持する部材である。吸収性コア11は、液体吸収性繊維であるセルロース系吸水性繊維と、熱可塑性樹脂繊維とを有し、これらの繊維同士が互いに混合した状態で、図1の破線で示されるように平面視縦長形状に成形されている。液体吸収性繊維としては、例えばパルプ繊維等が使用される。熱可塑性樹脂繊維としては、例えば鞘がポリエチレン（PE）で芯がポリエチレンテレフタレート（PET）の所謂鞘芯構造の複合繊維等が使用される。また、液体吸収性繊維に加えて液体吸収性粒状物の一例として高吸収性ポリマー（所謂SAP）等が使用されるのであっても良い。

[0037] 肌側シート12は、吸収性コア11と平面形状が略同形のシート部材であり、吸収性コア11の肌側面を覆うようにして接着剤HMAによって接合されている（図3参照）。肌側シート12は、エアスルー不織布等、液透過性に優れた柔軟なシートが用いられる。但し、他の種類の不織布やティッシュペーパー等が使用されるのであっても良い。非肌側シート13は、吸収性コア11と平面形状が略同形のシート部材であり、吸収性コア11の非肌側面を覆うようにして接着剤HMAによって接合されている（図3参照）。非肌側シート13は、SMS（спанbond／メルトブローン／спанbond）不織布等の柔軟なシートが用いられる。但し、他の種類の不織布やティッシ

ユーパー等が使用されるのであっても良い。

[0038] 図4は、吸収体10を厚さ方向の非肌側から見た概略平面図である。吸収体10には、同図4に示されるように、複数の吸収体点状圧搾部ED10が非肌側から圧搾形成されている。吸収体点状圧搾部ED10は、非肌側シート13と吸収体10と肌側シート12とを厚さ方向と一緒に圧搾することによって形成されており、これにより、吸収体10の剛性が高められている。なお、ここで言う「点状」は、或る点の周囲に形成される領域を含むものであり、吸収体点状圧搾部ED10は、所定の形状及び面積を有する。図4において、吸収体点状圧搾部ED10の平面形状は直径1.2mm程度の円形であり、千鳥状の配置パターンとされているが、何等これに限らない。本実施形態の吸収体10は、吸収体点状圧搾部ED10によって非肌側シート13と吸収体10と肌側シート12とが接合された状態で、厚さが3mm以下、望ましくは2mm以下となるように形成される、所謂薄型の吸収体である。

[0039] 図4に示すように、吸収体10には、幅方向の中央位置において長手方向に沿った折り誘導線15が形成されている。折り誘導線15は、長手方向に一直線に延びつつ同長手方向の全長に亘って形成されていて、吸収体10は当該折り誘導線15を基点として厚さ方向の肌側に突出して折れ曲がるように誘導される。実際に、吸収体10は、製造段階において折り誘導線15に沿って一旦折り曲げられた後、平面形状に戻された状態でトップシート20及びバックシート30と接合され、ナプキン1が形成される。すなわち、吸収体10には折り誘導線15に沿った折り癖がつけられている。なお、吸収体10を折り曲げやすくするように、折り誘導線15がスリット状の溝によって形成されていたり、吸収体10の表面にエンボス加工を施すことによって形成されていたりしても良い。また、折り誘導線15を挟んだ幅方向両側の領域（図4の斜線で表示されている領域）には、折り曲げ誘導領域15GAが形成されている。折り曲げ誘導領域15GAの詳細については後で説明する。

[0040] トップシート20は、ナプキン1の使用時において使用者の肌と当接する部材であり、経血等の液体を厚さ方向の肌側から非肌側に透過させ、吸収体10に移動させる。トップシート20は、エアスルー不織布等の適宜な不織布によって形成されているが、液透過性の柔軟なシートであれば、これ以外のシートが用いられても良い。

[0041] 図1に示すように、トップシート20の肌側面には、肌側から複数の圧搾部E、E…が形成されており、これにより、トップシート20と吸収体10とが一緒に厚さ方向に圧搾されて接合一体化されている。本実施形態のトップシート20では、かかる圧搾部Eとして、線状圧搾部EL20と、点状圧搾部ED20とが形成されている。線状圧搾部EL20は、吸収体10の外周縁部に沿って複数連なって形成されていて、これにより、全体として長手方向に長い略環状をなしている。一方、点状圧搾部ED20は、線状圧搾部EL20がトップシート20上に区画する略閉じた領域内に離散的に形成されている。この点状圧搾部ED20は、上述した吸収体点状圧搾部ED10と同様、或る形状及び面積を有して形成される。図1において、点状圧搾部ED20は円形として示されているが、円形に限られるものではない。

[0042] バックシート30は、ナプキン1の使用時においてトップシート20を透過して吸収体10によって吸収された液体が下着等の着衣側（非肌側）に染み出すことを抑制する。

バックシート30は、ポリエチレン（PE）等の適宜な樹脂フィルムによって形成されているが、液不透過性の柔軟なシートであれば、これ以外のシートが用いられても良い。

[0043] 図2に示されるように、バックシート30の非肌側面には、ナプキン1の使用時においてナプキン1を下着等に貼付して固定するための粘着部40が形成されている。粘着部40は、バックシート30のウイング部30wの非肌側面に略矩形状に形成される1対のウイング粘着部40wと、1対のウイング粘着部40wの幅方向の間の部分に形成される本体粘着部40cとを有する。本体粘着部40cは、例えば図2のように、バックシート30と吸収

体 1 0 とが重複する部分で長手方向に沿った複数の帯状の領域に適宜な接着剤 HMA を塗布することにより形成されている。ナプキン 1 を使用する際は、本体粘着部 4 0 c を下着の股下部（クロッチ部）内側に貼付した状態で下着ごとナプキン 1 を装着することで、使用者の身体に対して吸収体 1 0 の位置がずれないようにする。同様に、ウイング粘着部 4 0 w は、ウイング部 3 0 w が形成されている領域に適宜な接着剤 HMA を塗布することにより例えば略矩形状に形成される。ナプキン 1 を使用する際は、ウイング部 3 0 w （2 0 w）を非肌側に折り曲げつつ幅方向中央側に折り返し、ウイング粘着部 4 0 w を下着の股下部外側に貼付する。これにより、本体粘着部 4 0 c とウイング粘着部 4 0 w とで下着の股下部を挟み込むようにしてナプキン 1 が固定され、使用時の位置ずれ等を抑制することができる。

[0044] <ナプキン 1 の使用時について>

続いて、ナプキン 1 の使用時の態様について説明する。図 5 は、ナプキン 1 の使用態様について説明する図である。

[0045] 使用者がナプキン 1 を装着する際には、ナプキン 1 を下着の股下部（クロッチ部）に固定した状態で、下着を使用者の股間 2 0 1 K 側に引き上げる動作を行う。このとき、図 5 の状態 A で表されるようにナプキン 1 は、吸収体 1 0 に設けられた折り誘導線 1 5 に沿って肌側に突出するように折れ曲がる。そして、ナプキン 1 が使用者の股間 2 0 1 K に装着された状態では、図 5 の状態 B で表されるように、折り誘導線 1 5 に沿って肌側に突出した折れ曲がり部が、膣口等の排泄口 2 0 1 H e が存在する隙間に接しやすくなる。これにより、使用者に良好なフィット性を感じさせると共に、経血等の排泄液を漏れなく吸収体 1 0 に吸収させやすくすることができる。

[0046] しかしながら、ナプキン 1 を着用する動作中には様々な力が作用するため、吸収体 1 0 が図 5 の状態 A に示されるような良好な山型の折れ曲がり形状を維持できなくなるおそれがある。例えば、下着を引き上げる動作において使用者の両脚に挟まれることにより、吸収体 1 0 が幅方向内側に圧縮される場合がある。このような場合、吸収体 1 0 で折り誘導線 1 5 を挟んだ両側の

平面形状を有する部分（すなわち、図5の状態Aにおける三角形の辺の部分）に曲げの起点が発生し、山型の折れ曲がり形状が崩れてしまうおそれがある。特に、本実施形態の吸収体10には曲げの起点となりやすい線状圧搾部EL20が形成されているため、当該線状圧搾部EL20によって吸収体10の良好な折れ曲がり形状が崩れないようにする必要がある。

[0047] そこで本実施形態では、ナプキン1を下着に固定する粘着部40の配置を調整することにより、吸収体10の剛性に加えて下着の剛性を利用して吸収体10が平面形状を維持しやすいようにしている。その際、吸収体10が折り誘導線15に沿って肌側に突出して折れ曲がる変形を阻害しないように粘着部40の配置が調整される。以下、吸収体10（ナプキン1）の折れ曲がり形状と粘着部40の配置との関係について説明する。

[0048] 図6Aは、吸収体10を折り誘導線15に沿って折り曲げたときの状態について説明する概略断面図である。図6Bは、図6Aの状態から吸収体10を平面状に伸ばしたときの状態について説明する概略断面図である。

[0049] 上述したように吸収体10は製造工程において、折り誘導線15に沿って一旦折り曲げられることにより、図6Aに示されるような折り曲げ部が形成される。この折り曲げ部では、折り誘導線15の位置で吸収体10の肌側表面が厚さ方向の肌側に突出した状態となる。また、吸収体10の非肌側表面では、折り誘導線15の部分（幅方向の中央部）が幅方向の内側に圧縮されることから、一部が非肌側に突出した凸部15bが形成される。そして、折り誘導線15を中心とした幅方向の所定の領域に折り癖がつけられる。本明細書中では、この領域を折り曲げ誘導領域15GAとする。折り曲げ誘導領域15GAは、折り誘導線15の幅方向の両側にそれぞれ吸収体10の厚さ以下の幅を有するように形成される。すなわち、吸収体10の厚さを t とすると、折り曲げ誘導領域15GAは折り誘導線15を中心として幅方向に最大で $2t$ の幅を有する領域である。

[0050] 吸収体10を折り誘導線15に沿って折り曲げた後、折り曲げられた部分を伸ばすと、吸収体10は完全な平面には戻らず、図6Bに示されるように

折り曲げ誘導領域 15 G A の部分に形成された折り癖によって、折り誘導線 15 に沿って厚さ方向の肌側に突出して折れ曲がった状態がわずかに残る。その後、図 6 B のように伸ばされた状態の吸収体 10 は、トップシート 20 及びバックシート 30 によって厚さ方向に覆われて（図 3 参照）、ナプキン 1 が形成される。ナプキン 1 の着用時には、当該折り曲げ誘導領域 15 G A によって吸収体 10（ナプキン 1）が肌側に突出して折れ曲がりやすくなり、図 5 の状態 A のように変形する。

[0051] 本実施形態では、この折り曲げ誘導領域 15 G A と重複しないように粘着部 40 が配置される。さらに、粘着部 40 は、曲げの起点となりやすい線状圧搾部 E L 20 とも重複しないように配置される。これにより、ナプキン 1 の着用時において吸収体 10 の良好な折れ曲がり形状を維持しやすくなることができる。図 7 は、折り曲げ誘導領域 15 G A 及び線状圧搾部 E L 20 と粘着部 40 との関係を表す図である。

[0052] 同図 7 の網掛け表示部で示されるように、粘着部 40 のうち本体粘着部 40 c は、ナプキン 1 の長手方向中央部において、折り曲げ誘導領域 15 G A と線状圧搾部 E L 20 との間（幅方向の間）の領域に形成されている。また、粘着部 40 のうちウイング粘着部 40 w は、線状圧搾部 E L 20 よりも幅方向の外側に形成されている。すなわち、少なくとも長手方向の中央部において、線状圧搾部 E L 20 及び折り曲げ誘導領域 15 G A は、粘着部 40 と重複する領域に形成されていない。なお、「長手方向の中央部」とは、ナプキン 1 でウイング部 20 w, 30 w が形成されている領域である。さらに言うと、ウイング部 20 w, 30 w のうち、長手方向においてウイング粘着部 40 w が形成されている領域である（図 7 参照）。

[0053] 上述したように本体粘着部 40 c は、ナプキン 1 の着用時に下着の股下部（クロッチ部）に貼付されることにより、ナプキン 1（吸収体 10）の位置を固定する。本体粘着部 40 c が下着に貼付された状態では下着の生地と吸収体 10 とが一体的となるので、吸収体 10 で本体粘着部 40 c が形成されている部分の剛性は他の部分の剛性よりも高くなる。そのため、本体粘着部

40cが形成されている領域は平面形状を維持しやすく、ナプキン1を着用する動作において、図5の状態Aで示されるような山型の折れ曲がり形状を維持しやすくなる。

[0054] 一方で、このような剛性が高い平面領域に連続した線状の圧搾部が形成されていると、当該線状圧搾部が関節のように作用して、吸収体10は線状圧搾部を起点として折れ曲がりを生じやすくなる。そこで本実施形態では、本体粘着部40cと線状圧搾部EL20とが重複しないようにすることで、吸収体10及び下着が一体となっている領域（すなわち本体粘着部40cによって接合されている領域）の平面形状を維持しやすくしている。これにより、吸収体10に形成されている山型の折れ曲がり形状が崩れにくくなる。

[0055] また、本体粘着部40cが下着に貼付されている領域の剛性が高くなることから、仮に本体粘着部40cが折り曲げ誘導領域15GAと重複していると、折り誘導線15に沿った吸収体10の折れ曲がり変形が阻害されやすくなる。そこで本実施形態では、本体粘着部40cと折り曲げ誘導領域15GAとが重複しないようにすることで、ナプキン1の着用時において吸収体10が折り誘導線15に沿って折れ曲がりやすくなるようにしている。これにより、良好な山型の折れ曲がり形状が形成されやすくなり、ナプキン1のフィット性を向上させることができる。

[0056] 特に、ウイング粘着部40wによって下着に固定される位置（すなわち、長手方向において使用者の膣口と当接する位置）において、線状圧搾部EL20及び折り曲げ誘導領域15GAと、粘着部40とが重複しないようにすることで、使用者の膣口と当接する領域におけるフィット性を向上させることができる。

[0057] なお、図6Aで説明したように、吸収体10が折れ曲がると、吸収体10の幅方向中央部において非肌側面の一部が厚さ方向の非肌側に突出した凸部15bが形成される場合がある。この凸部15bと吸収体10の非肌側面の他の部分とが本体粘着部40cによって接着されると、当該接着された部分が固くなる。すると、吸収体10の山型形状の上端部が固くなるため、使用

者に違和感生じさせやすくなるおそれがある。しかし、この凸部 15 b が吸収体 10 の厚さ t よりも大きく形成されることはないので、折り曲げ誘導領域 15 G A の幅が $2t$ であれば、凸部 15 b は必ず折り曲げ誘導領域 15 G A の領域内に形成される。したがって、本実施形態において本体粘着部 40 c と折り曲げ誘導領域 15 G A とが重複していなければ、凸部 15 b と本体粘着部 40 c とが接触する可能性は低く、上述のような問題は生じない。但し、折り曲げ誘導領域 15 G A の幅が $2t$ よりも狭い場合もあるため、凸部 15 b と本体粘着部 40 c との接触を回避するためには、本体粘着部 40 c になるべく幅方向の中央から離れた位置に形成されることが望ましい。

[0058] また、粘着部 40 と線状圧搾部 E L 20 とが重複しないようにすることで、使用後のナプキン 1 を下着から取り外す際に、粘着部 40 を形成する接着剤 HMA が下着に残ってしまうこと（以下、アンカリングとも言う）を抑制することができる。図 8 A 及び図 8 B は、アンカリングが生じる原理について説明する図である。なお、図 8 A 及び図 8 B では、説明のため、粘着部 40 と線状圧搾部 E L 20 とが重複する場合について表している。

[0059] 線状圧搾部 E L 20 は、厚さ方向の肌側（すなわちトップシート 20 側）から吸収体 10 が圧搾されることによって形成され、図 8 A のように吸収体 10 の肌側には深い開口 H f が形成される。一方、吸収体 10 が厚さ方向に圧縮される影響により、非肌側にも開口 H f よりも浅い開口 H b が形成される場合がある。この状態で、線状圧搾部 E L 20 と重複して粘着部 40 が設けられると、図 8 A のように非肌側の開口 H b によって吸収体 10（バックシート 30）と粘着部 40 との間には空間 H b s が形成される。そして、ナプキン 1 を使用する際には、粘着部 40 を介してナプキン 1 の非肌面側が下着に貼付される。

[0060] ナプキン 1 の使用後に該ナプキン 1 を下着から取り外す際には、ナプキン 1 を肌側に引っ張って粘着部 40 を下着から引き剥がす。粘着部 40 と下着との接着力は、粘着部 40 とバックシート 30 との接着力よりも弱いため、通常、粘着部 40 はバックシート 30 と共に下着から離脱する。しかし、空

間H b s が形成されていた場合、当該空間H b s の部分では粘着部4 0 がバックシート3 0 と接着されていないため、図8 Bのように粘着部4 0 の一部4 0 h b は下着と接着された状態が維持される。これにより、粘着部4 0 の一部4 0 h b が下着側に残される（アンカリング）。

[0061] これに対して、本実施形態では、粘着部4 0 と線状圧搾部E L 2 0 とが重複していないので、図8 Aにおける空間H b s が形成されない。したがって、粘着部4 0 を形成する接着剤HMAの一部（図8 Bにおける4 0 h b に相当する部分）が下着側に残ってしまうことが抑制される。

[0062] ところで、実際にナプキン1を使用する際には、ウイング部2 0 w, 3 0 wを幅方向の中央側へ折り返して下着の股下部外側（クロッチ部の非肌側）にウイング粘着部4 0 wを貼付する（図1 0参照）ことによってナプキン1を下着に固定する。本実施形態のナプキン1では、このウイング粘着部4 0 wによって、折り誘導線1 5に沿った山型の折れ曲がり形状がより崩れにくくなるようにしている。

[0063] 図9は、ウイング部2 0 w, 3 0 wを折り返した状態における、折り曲げ誘導領域1 5 G A及び線状圧搾部E L 2 0とウイング粘着部4 0 wとの関係を表す図である。図1 0は、図9のB-B矢視で示す断面について、ナプキン1を下着に固定したときの状態について示す図である。図9の太線部で示されるように、ウイング部2 0 w, 3 0 wを幅方向の中央側へ折り返すと、ウイング粘着部4 0 wの一部の領域が本体粘着部4 0 cと重複する。この重複した部分では、図1 0に示されるようにウイング粘着部4 0 w及び本体粘着部4 0 cが厚さ方向について下着を挟み込んだ状態となるため、当該重複した部分では剛性がより高くなる。つまり、少なくとも吸収体1 0と下着とウイング部2 0 w, 3 0 wとからなる3つの層を有することによって当該部分の剛性が高まり、平面形状を維持しやすくなる。これにより、吸収体1 0の折れ曲がり形状がより崩れにくくなる。

[0064] 但し、ウイング部2 0 w, 3 0 wを幅方向の中央側へ折り返したときにウイング粘着部4 0 wが折り曲げ誘導領域1 5 G Aと重複すると、折り曲げ誘

導領域 15GA の剛性が高くなり、折り誘導線 15 に沿った吸収体 10 の折れ曲がり変形が阻害されるおそれがある。そこで、本実施形態ではウイング部 20w, 30w の折り返し量が最大となった場合でも、ウイング粘着部 40w が折り曲げ誘導領域 15GA と重複しないようにしている。ここで、ウイング部 20w, 30w の折り返し量が最大となる場合とは、ウイング部 20w, 30w を吸収体 10 の幅方向の端縁部に沿って折り返したときのことを言う。

[0065] 図 11 は、ウイング部 20w, 30w を吸収体 10 の幅方向端縁部に沿って折り返した状態における、折り曲げ誘導領域 15GA 及び線状圧搾部 EL20 とウイング粘着部 40w との関係を表す図である。同図 11 に示されるように、ウイング部 20w, 30w の折り返し量が最大となった場合、ウイング粘着部 40 は本体粘着部 40c と重複する部分を有するが、折り曲げ誘導領域 15GA と重複する部分は有していない。これにより、折り曲げ誘導領域 15GA の剛性が高くなることが抑制される。したがって、ナプキン 1 の着用時において、吸収体 10 の折り誘導線 15 に沿った折れ曲がり変形が阻害されにくくなる。なお、図 11 では、ウイング部 20w, 30w の幅方向端部が折り曲げ誘導領域 15GA と重複しているが、ウイング部 20w, 30w 自体も折り曲げ誘導領域 15GA と重複しないようにすれば、折り曲げ誘導領域 15GA の剛性が高くなることをさらに抑制しやすくなり、吸収体 10 の折り誘導線 15 に沿った折れ曲がり変形がより阻害されにくくなる。

[0066] また、吸収体 10 の長手方向の中央部以外の領域では、線状圧搾部 EL20 と粘着部 40 とが重複していても良い場合がある。例えば、本実施形態では、図 7 の R1 ~ R3 で表される領域において、線状圧搾部 EL20 と粘着部 40 とが重複している。

[0067] 図 7 の領域 R1 は、長手方向の中央部よりも前側に位置し、当該領域において線状圧搾部 EL20 は分断されている。同様に、領域 R2 及び領域 R3 は、長手方向の中央部分よりも後側に位置し、当該領域において線状圧搾部

E L 2 0 は分断されている。線状圧搾部 E L 2 0 が長手方向の中央部よりも外側 (R 1 ~ R 3) において分断されているのは、長手方向の中央部と長手方向の前後部分とで、吸収体 1 0 に作用する力を変化させるためである。例えば、長手方向中央部は使用者の膣口と当接する領域であるため、吸収体 1 0 は図 5 のように肌側に突出して折れ曲がることが望ましい。一方、長手方向の前部は比較的平坦な使用者の腹と当接する領域であるため、吸収体 1 0 が長手方向の中央部と同様に折れ曲がると、かえってフィット性が悪化する場合がある。そこで、本実施形態のナプキン 1 では、線状圧搾部 E L 2 0 を分断することによって、吸収体 1 0 に作用する力を変化させている。

[0068] 一方、線状圧搾部 E L 2 0 が完全に分断されている場合、使用者の身体の動きに連動する下着の動きに対して、吸収体 1 0 の動きが当該分断箇所を境にして追従できなくなり、吸収体 1 0 の折り曲げ形状が崩れてしまうおそれがある。そこで、本実施形態では領域 R 1 ~ R 3 において線状圧搾部 E L 2 0 が分断された箇所と粘着部 4 0 (本体粘着部 4 0 c) とを重複させている。これにより、線状圧搾部 E L 2 0 の分断された箇所が粘着部 4 0 を介して下着と接合され、線状圧搾部 E L 2 0 を伝播する力 (例えば、鼠蹊部における股締め力によって発生し、長手方向の中央から前後へ線状圧搾部 E L 2 0 を伝播する力) の一部が当該分断箇所を超えて伝達されるようになる。したがって、線状圧搾部 E L 2 0 の分断箇所の前後で吸収体 1 0 の動きが下着の動きに追従しやすくなり、折り曲げ形状が崩れてしまうことが抑制される。

[0069] また、本実施形態において、点状圧搾部 E D 2 0 の一部は粘着部 4 0 (本体粘着部 4 0 c) と重複して配置されている。点状圧搾部 E D 2 0 は、開口部の大きさが 0.5 mm ~ 5 mm 程度の小さな圧搾部が離散的に形成されたものであるため、線状圧搾部 E L 2 0 と比較して、吸収体 1 0 の折れ曲がりの起点にはなりにくい。したがって、点状圧搾部 E D 2 0 が粘着部 4 0 と重複していたとしても、該点状圧搾部 E D 2 0 の影響で折り誘導線 1 5 に沿った吸収体 1 0 の折り曲げ形状が崩れてしまう可能性は低い。逆に、吸収体 1 0 の表面に点状圧搾部 E D 2 0 が等間隔に形成されていれば、吸収体 1 0 の

剛性が均一になりやすいため、吸収体 10 に折り癖をつけることが容易になる。本実施形態では、複数の点状圧搾部 ED 20 が長手方向に沿って等間隔に並ぶことにより、列 L 201 ~ L 205 を形成しており、吸収体 10 が折り誘導線 15 に沿って山型に折れ曲がる際には、列 L 201 ~ L 205 の形成された領域が平面形状に保たれることにより、吸収体 10 の折れ曲がり形状が崩れにくくなる。

[0070] なお、複数の点状圧搾部 ED 20 のうち、幅方向の最も内側に配置されている列 L 201 に属する点状圧搾部 ED 20 の位置は、本体粘着部 40c の幅方向内側端部の位置よりも内側となる（図 7 参照）。上述したように、吸収体 10 が折れ曲がる際に折り曲げ誘導領域 15GA の非肌側面に突出する凸部 15b（図 6A 参照）と接触させないため、本体粘着部 40c は吸収体 10 の幅方向中央からなるべく離れて形成されることが望ましい。一方、点状圧搾部 ED 20 にはそのような制約は存在しない。したがって、点状圧搾部 ED 20 は本体粘着部 40c よりも幅方向の内側まで配置することが可能である。幅方向において下着に固定されている領域よりも点状圧搾部が形成されている領域が広くなるため、平面形状が保たれやすくなり、折れ曲がり形状がより崩れにくくなる。

[0071] また、本実施形態では、吸収体 10 自体の構造が、ナプキン 1 の着用時に折り誘導線 15 に沿って肌側に突出して折れ曲がりやすく、また、折れ曲がった状態を維持しやすい構造となっている。具体的に、吸収体 10 は、全領域において厚さ及び目付量（単位面積当たりの質量）が均一になるように形成されている。特に、点状圧搾部 ED 20 が形成される領域（線状圧搾部 EL 20 によって囲まれる領域）では、目付にムラが生じないように形成されている。当該領域では点状圧搾部 ED 20 が形成されることによって部分的に吸収体 10 の剛性が変化するため、仮に目付量が不均一であるとその部分に歪等が生じやすくなり、吸収体 10 の折れ曲がり変形が不安定になるおそれがある。一方、目付量が均一であれば、図 5 のようにナプキン 1 の装着時において、下着を引き上げる際に歪等が生じにくくなり、折り誘導線 15 に

沿った良好な変形を阻害しにくい。

[0072] そして、上述したように吸収体 10 は、その厚さ t が 3 mm 以下、望ましくは 2 mm 以下となるように形成されている。全体が薄く形成されているため、吸収体 10 は折り誘導線 15 に沿って容易に折り曲げることができる。また、薄型であるため、折り曲げた状態から平面状態に戻ろうとする力が大きくなりやすく、肌側に突出して折れ曲がった形状が維持されやすくなる。

[0073] ===その他の実施の形態===

以上、本発明の実施形態について説明したが、上記の実施形態は、本発明の理解を容易にするためのものであり、本発明を限定して解釈するためのものではない。また、本発明は、その趣旨を逸脱することなく、変更や改良され得るとともに、本発明にはその等価物が含まれるのは言うまでもない。例えば、以下に示すような変形が可能である。

[0074] 上述の実施形態では、吸収性コア 11 における幅方向の中央位置に折り誘導線 15 が形成されていたが、何等これに限らない。すなわち、中央位置から若干幅方向にずれた位置に折り誘導線 15 が形成されていても良い。但し、吸収性コア 11 やナプキン 1 は、基本的に幅方向の中央位置に関して対称形状に設計されていることから、望ましくは折り誘導線 15 を幅方向の中央位置に形成すると良い。

[0075] 上述の実施形態では、吸収性コア 11 は肌側シート 12 と非肌側シート 13 の二枚のシートで覆われていたが、何等これに限らない。例えば、吸収性コア 11 の肌側面及び非肌側面を一枚のシートで包むようにして覆っても良い。

[0076] 上述の実施形態では、トップシート 20 及びバックシート 30 が、長手方向中央部の領域において幅方向外側に延出することによって、ウイング部 20w, 30w が形成されていたが、何等これに限らない。例えば、ウイング部 20w, 30w を形成する部材とトップシート 20, バックシート 30 を形成する部材とが異なる部材であっても良い。

符号の説明

[0077] 1 生理用ナプキン（ナプキン）、
1 0 吸収体、
1 1 吸収性コア、
1 2 肌側シート（シート部材）、1 3 非肌側シート（シート部材）、
1 5 折り誘導線、1 5 G A 折り曲げ誘導領域、1 5 b 凸部、
2 0 トップシート、2 0 w ウイング部、2 0 e 外周縁部、
3 0 バックシート、3 0 w ウイング部、3 0 e 外周縁部、
4 0 粘着部、4 0 c 本体粘着部、4 0 w ウイング粘着部、
2 0 1 K 股間、2 0 1 H e 排泄口、
E 圧搾部、
E D 1 0 吸収体点状圧搾部、
E D 2 0 点状圧搾部、
E L 2 0 線状圧搾部、
H M A 接着剤、
L 2 0 1 ～ L 2 0 5 列、
R 1 ～ R 3 領域、
t 厚さ（吸収体 1 0）

請求の範囲

- [請求項1] 互いに直交する長手方向と幅方向と厚さ方向とを有する吸収性物品であって、
- 液吸収性の吸収体と、
- 前記厚さ方向の肌側から前記吸収体を覆うトップシートと、
- 前記厚さ方向の非肌側から前記吸収体を覆うバックシートと、
- を有し、
- 前記吸収体は、前記厚さ方向の肌側に突出して折れ曲がるように誘導する折り誘導線を前記長手方向に沿って有し、前記折り誘導線の前記幅方向の両側にそれぞれ前記吸収体の厚さ以下の幅を有する折り曲げ誘導領域が形成され、
- 前記吸収体と前記トップシートとは前記長手方向に沿った線状圧搾部によって接合されており、
- 前記バックシートは、前記厚さ方向の非肌側に接着剤が塗布された領域である粘着部を有し、
- 少なくとも前記長手方向の中央部において、前記折り曲げ誘導領域及び前記線状圧搾部は、前記粘着部と重複する領域に形成されていない、ことを特徴とする吸収性物品。
- [請求項2] 請求項1に記載の吸収性物品であって、
- 前記吸収体は、前記折り誘導線に沿って前記厚さ方向の肌側に突出して折れ曲がっている、ことを特徴とする吸収性物品。
- [請求項3] 請求項1または2に記載の吸収性物品であって、
- 前記バックシートから前記幅方向の外側に延出して下着に固定されるウイング部を有し、
- 前記ウイング部の前記厚さ方向の非肌側には、前記接着剤が塗布された領域であるウイング粘着部が形成されており、
- 前記長手方向の中央部は、前記長手方向においてウイング粘着部が形成されている領域である、ことを特徴とする吸収性物品。

- [請求項4] 請求項3に記載の吸収性物品であって、
前記バックシートの前記厚さ方向の非肌側で、前記幅方向の両端に設けられた1対の前記ウイング粘着部の間には、前記接着剤が塗布された領域である本体粘着部が形成されており、
前記ウイング部を前記幅方向の中央側へ折り返したときに、前記ウイング粘着部のうち少なくとも一部の領域が、前記本体粘着部と重複する、ことを特徴とする吸収性物品。
- [請求項5] 請求項4に記載の吸収性物品であって、
前記ウイング部を前記吸収体の前記幅方向の端縁部に沿って前記幅方向の中央側へ折り返したときに、前記ウイング粘着部と前記折り曲げ誘導領域とが重複しない、ことを特徴とする吸収性物品。
- [請求項6] 請求項4または5に記載の吸収性物品であって、
前記線状圧搾部は、前記長手方向の中央部よりも外側において分断された箇所を有し、
前記線状圧搾部が分断された箇所と前記本体粘着部とが重複している、ことを特徴とする吸収性物品。
- [請求項7] 請求項4～6のいずれかに記載の吸収性物品であって、
前記吸収体と前記トップシートとは複数の点状圧搾部によって接合されており、
複数の前記点状圧搾部のうち、前記幅方向の最も内側に配置されている前記点状圧搾部の位置は、前記本体粘着部の前記幅方向の内側端部の位置よりも前記幅方向の内側である、ことを特徴とする吸収性物品。
- [請求項8] 請求項7に記載の吸収性物品であって、
複数の前記点状圧搾部が前記長手方向に沿って並ぶことにより、複数の列が形成されており、
複数の前記列のうち、前記幅方向の最も内側に配置されている前記列の位置は、前記本体粘着部の前記幅方向の内側端部の位置よりも前

記幅方向の内側である、ことを特徴とする吸収性物品。

[請求項9]

請求項7または8に記載の吸収性物品であって、

複数の前記点状圧搾部が等間隔で配置されている、ことを特徴とする吸収性物品。

性物品。

[請求項10]

請求項1～9のいずれかに記載の吸収性物品であって、

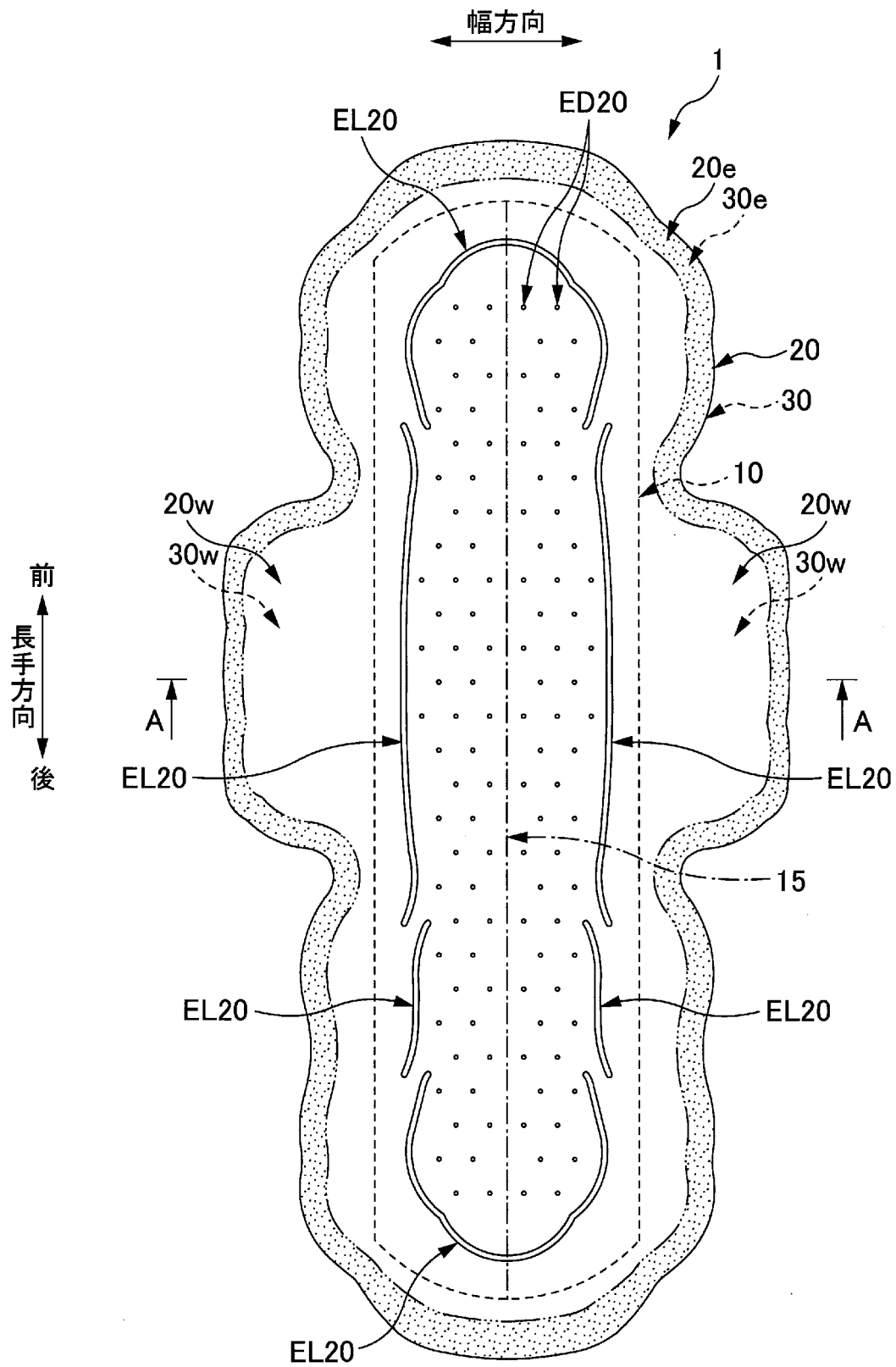
前記吸収体の単位面積当たりの質量が均一である、ことを特徴とする吸収性物品。

[請求項11]

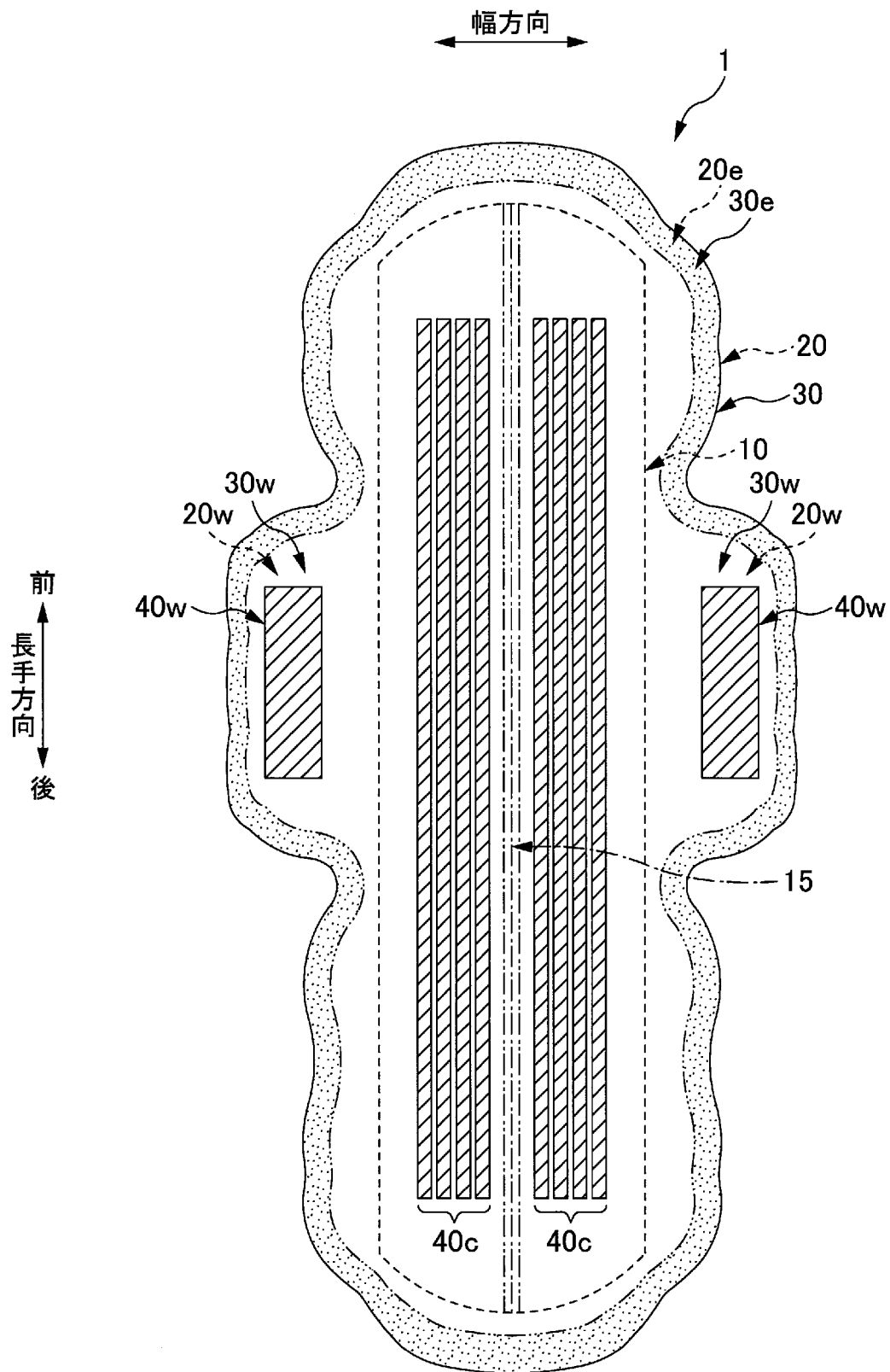
請求項1～10のいずれかに記載の吸収性物品であって、

前記吸収体の厚さは3 mm以下である、ことを特徴とする吸収性物品。

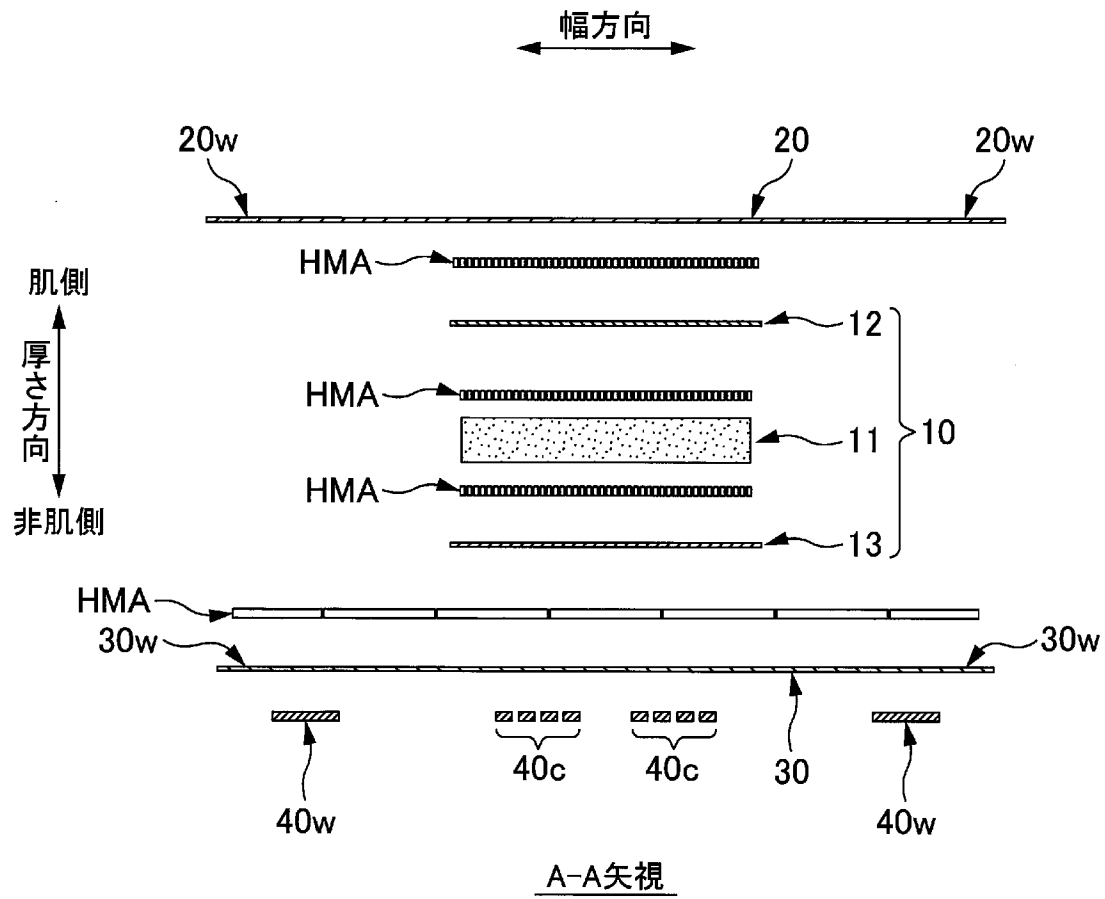
[図1]



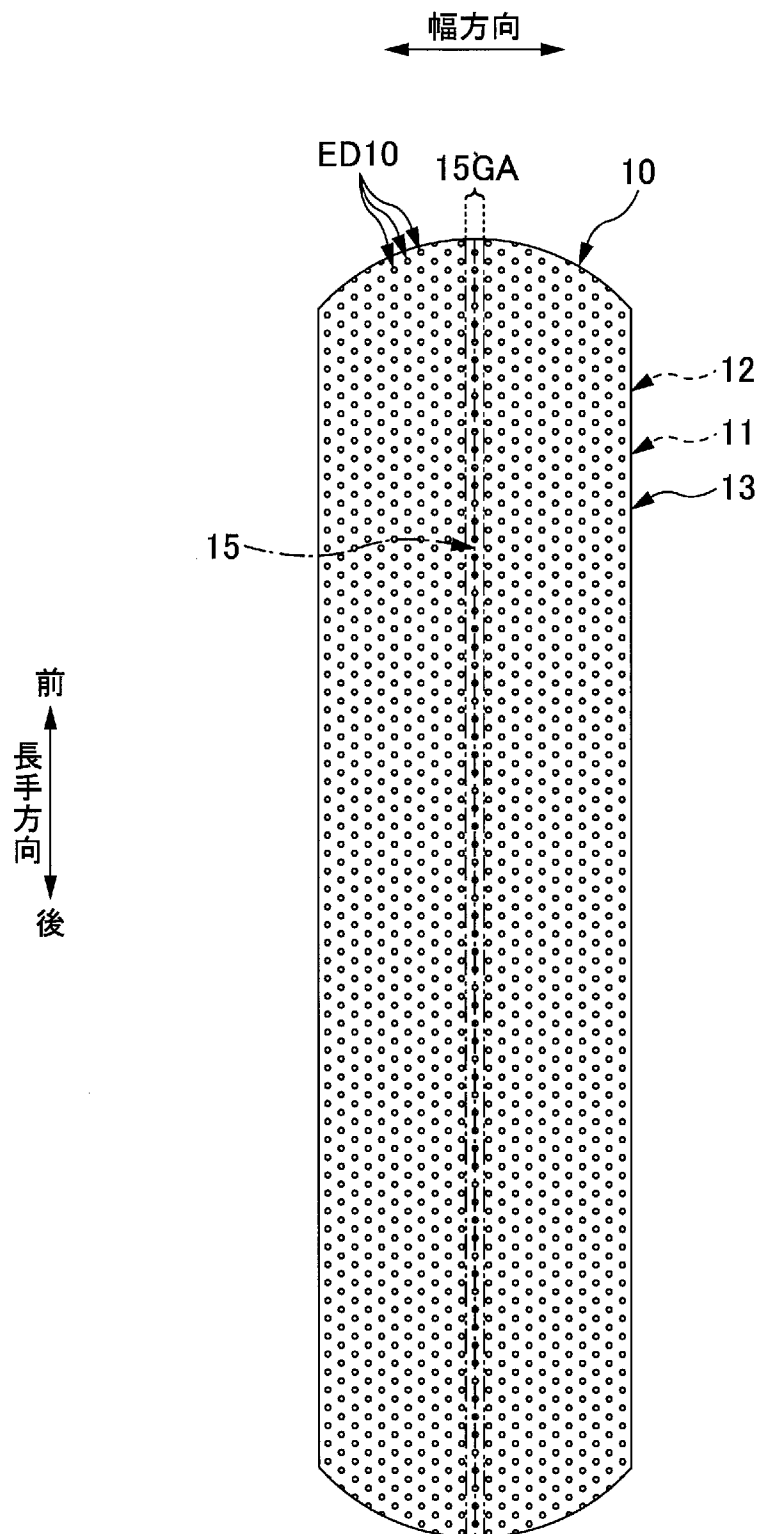
[図2]



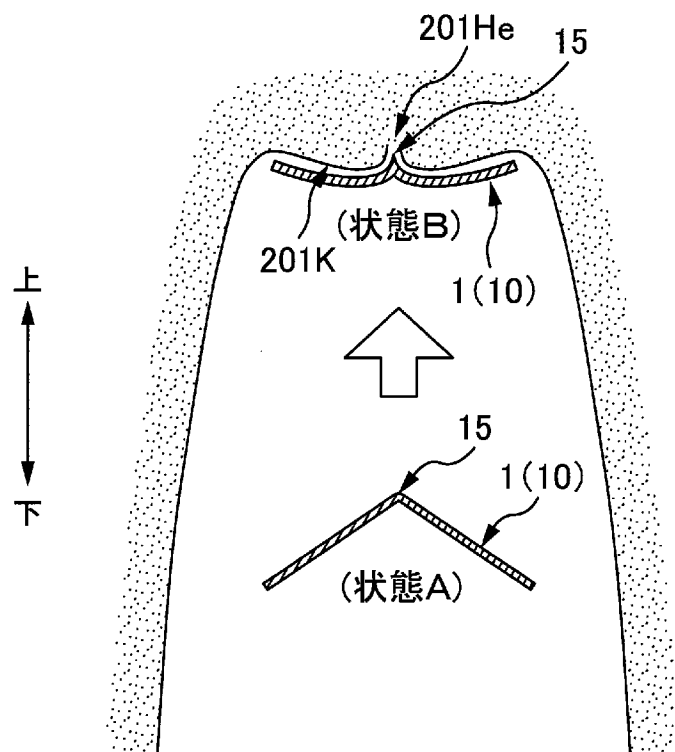
[図3]



[図4]



[図5]



[図6]

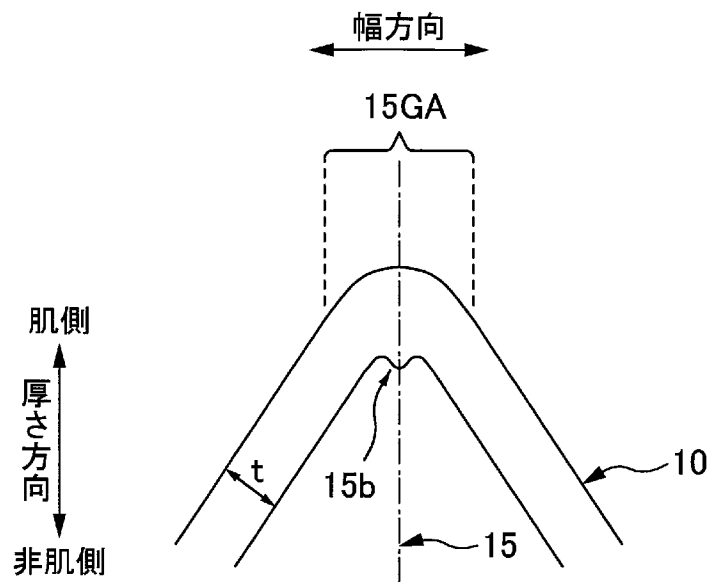


図6A

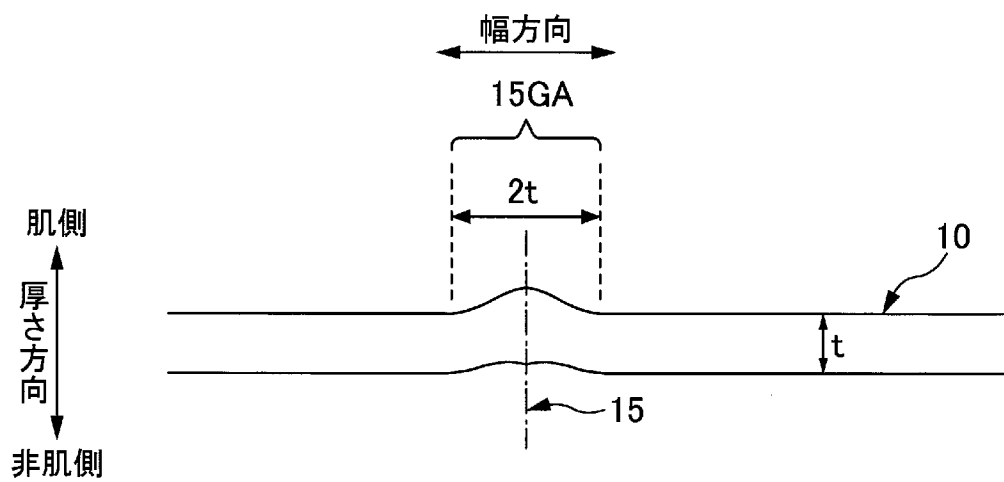
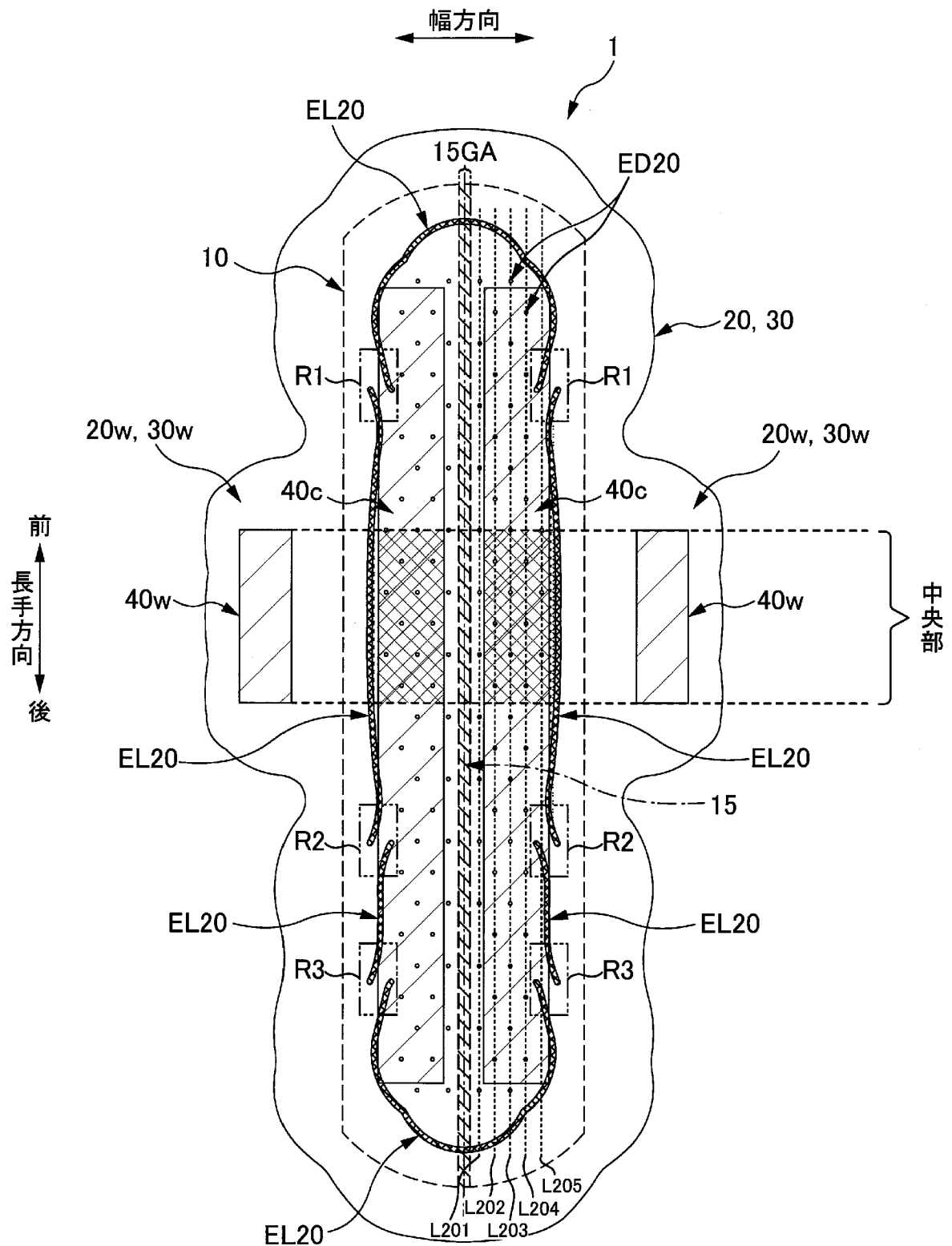


図6B



[図8]

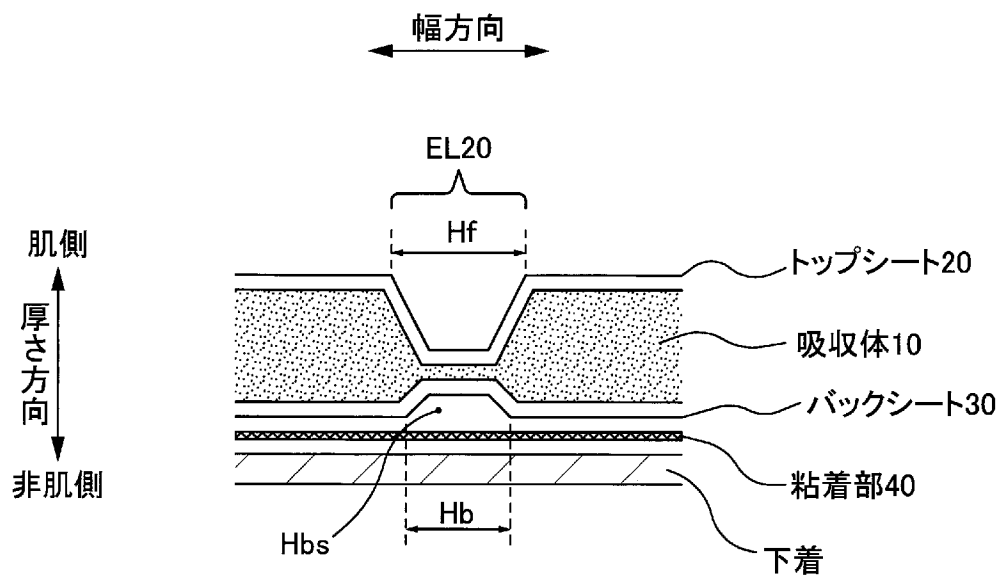


図8A

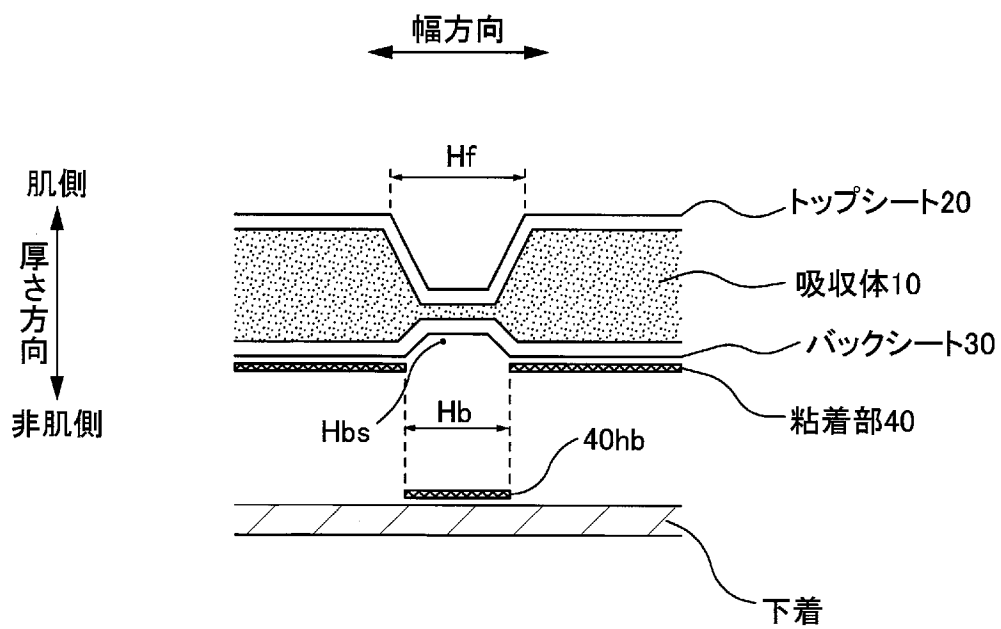
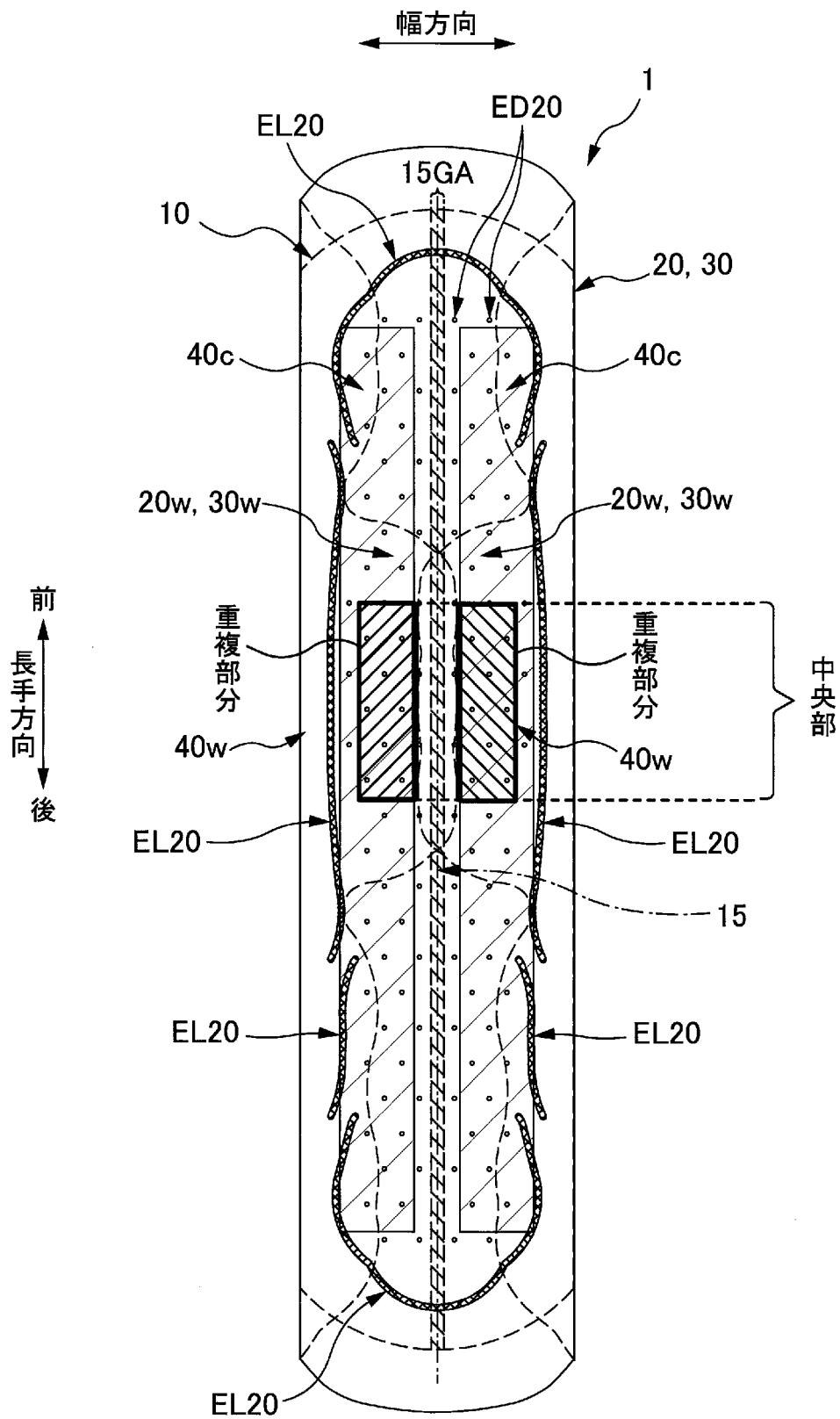


図8B

Figure 1 is a plan view of a garment 1. The garment has a central portion and side portions 20w and 30w. The central portion contains a repeating pattern of elements 40w and 40c. The side portions 20w and 30w are located on the left and right sides of the central portion. The garment is labeled with various components: 10, 15GA, 15, 20, 30, 40c, 40w, EL20, and ED20. Directional arrows indicate the width direction (幅方向) and the length direction (長手方向). A bracket on the right side of the central portion is labeled "中央部".

[図11]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2015/064194

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

A61F13/472(2006.01)i, A61F13/533(2006.01)i, A61F13/56(2006.01)i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

A61F13/00, 13/15-13/84

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2015
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2015	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2015

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	JP 2011-250888 A (Uni-Charm Corp.), 15 December 2011 (15.12.2011), paragraphs [0012] to [0020], [0038], [0043], [0049], [0057] to [0059]; fig. 4 to 6 & WO 2011/152391 A1 & US 2013/0123729 A1 & EP 2578194 A1 & CN 102917677 A	1-11
Y	JP 2003-38564 A (Uni-Charm Corp.), 12 February 2003 (12.02.2003), paragraphs [0075] to [0079]; fig. 3 (Family: none)	1-11
Y	JP 4-40949 A (Kao Corp.), 12 February 1992 (12.02.1992), page 5, lower left column, lines 13 to 17; fig. 13 (Family: none)	4-11

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C.

☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
16 July 2015 (16.07.15)

Date of mailing of the international search report
28 July 2015 (28.07.15)

Name and mailing address of the ISA/
Japan Patent Office
3-4-3, Kasumigaseki, Chiyoda-ku,
Tokyo 100-8915, Japan

Authorized officer

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2015/064194

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	JP 2010-148708 A (Uni-Charm Corp.), 08 July 2010 (08.07.2010), paragraphs [0015], [0034]; fig. 2 & WO 2010/074339 A1 & US 2011/0319851 A1 & EP 2371333 A1 & KR 10-2011-0107346 A & CN 102264328 A	7-11

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（I P C））

Int.Cl. A61F13/472(2006.01)i, A61F13/533(2006.01)i, A61F13/56(2006.01)i

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（I P C））

Int.Cl. A61F13/00, 13/15-13/84

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1 9 2 2 - 1 9 9 6 年
日本国公開実用新案公報	1 9 7 1 - 2 0 1 5 年
日本国実用新案登録公報	1 9 9 6 - 2 0 1 5 年
日本国登録実用新案公報	1 9 9 4 - 2 0 1 5 年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
Y	JP 2011-250888 A（ユニ・チャーム株式会社）2011.12.15, [0012]-[0020], [0038], [0043], [0049], [0057]-[0059], 図 4-6 & WO 2011/152391 A1 & US 2013/0123729 A1 & EP 2578194 A1 & CN 102917677 A	1-11
Y	JP 2003-38564 A（ユニ・チャーム株式会社）2003.02.12, [0075]-[0079], 図 3 （ファミリーなし）	1-11

☒ C 欄の続きにも文献が列挙されている。☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）
「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

1 6 . 0 7 . 2 0 1 5

国際調査報告の発送日

2 8 . 0 7 . 2 0 1 5

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁（I S A / J P）
郵便番号 1 0 0 - 8 9 1 5
東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官（権限のある職員）

笹木 俊男

3 B

3 7 5 0

電話番号 0 3 - 3 5 8 1 - 1 1 0 1 内線 3 3 2 0

C (続き) . 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
Y	JP 4-40949 A (花王株式会社) 1992. 02. 12, 5 ページ左下欄 13-17 行, 図 13 (ファミリーなし)	4-11
Y	JP 2010-148708 A (ユニ・チャーム株式会社) 2010. 07. 08, [0015], [0034], 図 2 & WO 2010/074339 A1 & US 2011/0319851 A1 & EP 2371333 A1 & KR 10-2011-0107346 A & CN 102264328 A	7-11